

*平成30年度 第6回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日時 平成31年2月18日(月)
午後1時30分～午後3時15分
場所 蒲郡市役所新館3階302会議室

1 開会

事務局より配布資料の確認、欠席及び途中退席者の報告
委員委嘱について説明、委嘱状の授与

2 議題

(1) 平成30年度第5回議事要旨の確認について

○事務局より第5回まちづくり会議議事要旨を説明
→委員に意見を伺い、特に意見がなく承認された。

(2) 平成30年度採択団体事業実施状況について

○事務局より、実施状況について説明

- ・絵本で遊ぼう(愛知こどもと本と文化の会蒲郡支部)

日時: 1月5日(土) 午後2時40分～

(友愛クラブとコラボレーション企画)

→普段は個別に活動している団体だが、一緒にできて楽しかった。

→高齢者にも本の良さを広めていきたい。

- ・ユニバーサルマインド講座 第4回(夢追いかけてまちづくり同好会)

日時: 2月3日(日) 午後1時30分～

過去3回の講座で学んだことのまとめの発表後、コミュニケーション、移動・外出、就労をテーマに議論。

→やれる仕事ではなく、やりたい仕事、中途障がいになっても現在の仕事が続けられるような社会にしていきたい。

- ・がまごおり地魚普及実行委員会

日時: 2月17日(日) 午前10時～

農林水産まつりにて、耳石採取体験のワークショップ・地魚の日の制定イベント

○委員より、まちづくり会議の趣旨を説明するよう依頼

→この会議では、蒲郡市がどんなまちづくりをしていくのか、市民団体にはどのようなサポートが必要なのか、行政と市民がどうしたら協働で取組んでいけるのかということ話し合っている。また、なるべく多くの市民が活動できるように、助成金を交付、またその交付要綱なども審議している。

→会議のもうひとつ大きな柱として、モデル事業がある。社会実験的なまちづくりとして、事業の成果なども検討している。

(3) 助成金事業応募状況等について

○事務局より、助成金について及び応募状況について説明

→「はじめの一步部門」は1件、「活動ステップアップ部門」は応募はなし。

「はじめの一步部門」は、3月3日（日）に審査会を行う。

活動ステップアップ部門は再募集を実施。締め切りを6月15日（土）、審査日を7月を7月13日（土）とする予定。

→団体の相談件数が少ない。団体からは「どんな事業をすれば合格するのか」「どんな事業が求められているのか」と不安を口にすることが多い。まちづくりセンターとしては、やりたいことをもって申請するように勧めている。相談件数は、はじめの一步部門3件、活動ステップアップ部門は1件、助成金の相談なのかなと微妙なものが2件であった。申請に至らなかったのは、時間が無くて申請まで準備ができなかったというものだった。

○事務局より、助成金事業の経緯について説明

・助成金は、平成29年度までで91事業（はじめの一步部門：40事業、活動ステップアップ部門：51事業）で約2,350万円の補助を実施してきた。導入初動期は5～6団体の申し込みがあったが、平成24年度から申し込みが減少。それ以降は、初挑戦という団体が減ってきている。平成28年度から助成金制度の見直しを検討してきた。また、今年度から新たな挑戦者発掘のための講座をスタートさせた。

→自分達の活動が、広がっていけばいいなという思いはある。地域にアピールしたいということから、総代さんと繋がりを持とうと試みている。いろいろなところに伝われば良いし、真似していただければいい。

→地域に密着した居場所づくりを行っている。蒲郡音頭とお話をする会のセットでやっている。社協に連絡したら、毎月やってくれれば補助できるよといわれた（いきいきサロン）

→居場所作りに取り組んでいると、一人数百円の補助でも助かる。ただし、補助金であるので、他の団体の申請状況により補助対象から外れることがある。

・元気にまちづくりができていけば、助成金がなくても良いのではないかな。現状はどうなのか。

→もらっていないところもある。まちづくりセンターでは、団体同士を繋げるなどサポートを行い、団体の活性化をはかるよう心がけている。

・最近、団体が活動の見直しや活動の削減を目的とした相談がある。一方で、団体の中には、次のステップを踏み出そうと考えているところもある。団体を超えて相談する・連携することが少ない。新規の団体は、市役所・商工会議所などからヒントを貰い、まちづくりセンターを訪れる事が多いが、最近はそういった話も少なくなった。

→現在はコラボレーションを推進する段階なのかと考える。いいことやっているのに、伝播したいと考えるが、中々難しいところもある。

・スマホ・ネットを使ってまちを楽しくするなどが流行っている。

・今月学校の「図書室見学ツアー」に参加した。百人一首に取り組んでいるグループと出会った。彼らと子どもを繋げれば、それだけですぐに実現できそうだなと思った。出かけることが大事。

・まちカフェを開いて「困っている人きて！」と声をかけても、集まらない。

- ・新しい事業を始めて、自治会の仕事にすると次の自治会役員のなり手が減ってしまうことがある。自治会自体にその事業をするチームのようなものを組んで、自治会長と一緒にやっていくほうがよい。

(4) モデル事業について

○モデル事業について、事務局より説明

→第1回目を4月21日（日）午前10時～午後2時で行う。

（後日、実行委員との相談により、午後3時までに変更した。）

- ・マルシェをやりたい人はたくさんいると思う。地元の人が楽しめることが大事。
 - とりあえず出店店舗は、幸田の正楽寺の出店者に声をかける。ただし、固定ではなく、毎回入れ替えたりするため、市内の人を呼び込むことも出来ると思う。また、マルシェだけではなく、ワークショップも行う。
 - マルシェをすることが目的ではなく、市外から店舗を呼ぶことが目的でもない。地域の中で、やりたいとなった人にどのように参加してもらえるかが大事。やる前のコンセプト作りが大事である。出店者の気持ちにリンクするとよい。例えば、オーガニックのものばかり集めるなど、それで集まると繋がりが持てるなど。
- ・出店料はどんな感じか。公が行うと安いため、商売力が高まることも考えられる。地元の人たちの思いが実現されないと、やる意味が薄らぐ。
 - 利益追求型の人はいない。熱意があり、楽しいから出店したいという人が多い。地域の人が入りたい場合には、入れたいと伝えてある。
 - 最も収益感覚が強いのは飲食店舗だが、今回は飲食店が無いので大丈夫と思う。地元枠を設定してもよいのではないかと。地域の繋がりが生まれる可能性がある。
 - ある程度お客さんが来たほうが、達成感がある。人を集める店舗があると助かる。コンセプトも大事なので、出店の際に用紙にして確認してもらうなどしてもよい。
- ・マルシェは手段の一つとして捕らえてよいのか。
 - よい。実行委員会とも話している。
- ・ワークショップはどのようなものを行うのか。
 - 現段階では、木工と絵本の読み聞かせを検討している。
- ・関わる人がどのくらい楽しめるかが今後継続していくポイント。お手伝いの人にも、楽しんでもらえないと2回目がない。
 - 例えば、自分の作ったイスを置こう！となったら、会場に見にいってみようかなと思う。野菜を持っていっても一緒。
- ・地域の人がお客さんになれば、賑わいにつながるのか。
 - 地域の方は、お客さんでもあり運営側でもあれば良いと思う。毎回運営だと疲れてしまうし、お客さんだと疎外感がある。やってみて、誰も来ないと耐えられない。こちらの思いばかり伝えても、やらされた感が強くなる。
- ・やってよかったという成果（集客）はあっても良いと思う。
- ・ごりやく市、森の文化祭とのターゲット層は異なるのか。周知はどのようにするのか。
- ・新しい主役が増えたらよい。学生さんなど若い人を巻き込みたい。主役を今までやっ

てこなかった人たちに、話を振ってみたら面白いと思う。

- このモデル事業は協働となるのか。
 - 団体と行政が協力しながら実行する。
 - 今回は官民連携だと思う。資金だけではなく、行政が持っている使える力を民間が上手に使って実現することがテーマ。

3 その他

- 実績報告会について
 - 5月11日（土）午前中に開催予定
（後日、午後に変更した。）
- 役員の改選について
 - 広報3月号で募集掲載
- 事務局より次回日程を提案
 - 5月13日（月） 午後2時15分～ 601会議室 で仮決定
- 賀詞交歓会について事務局より報告